

経営比較分析表（令和5年度決算）

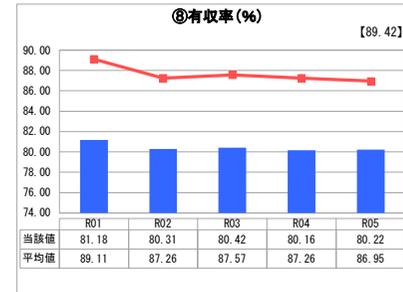
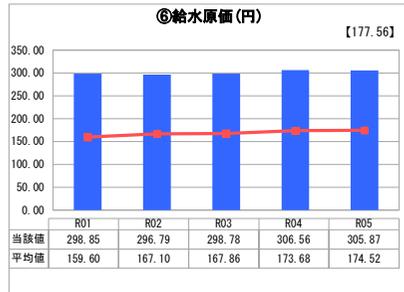
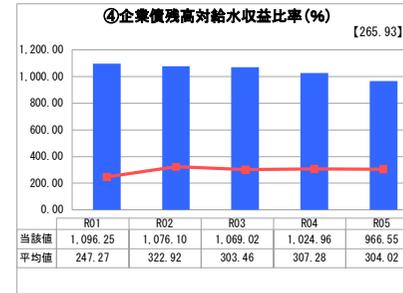
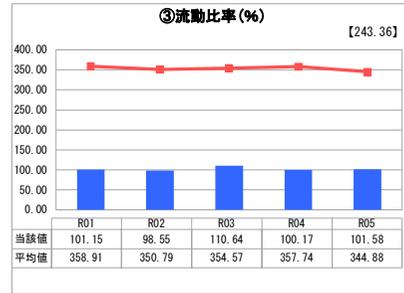
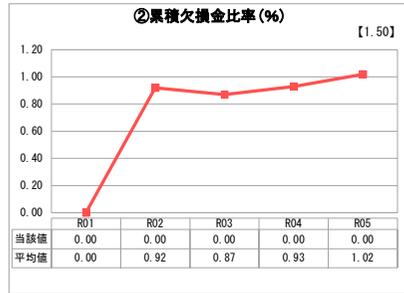
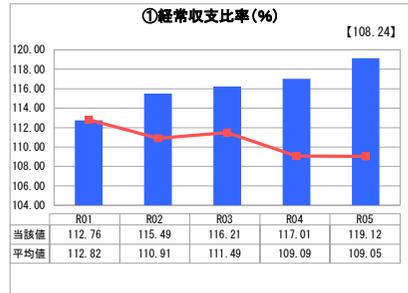
岩手県 一関市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	48.59	87.74	4,763	

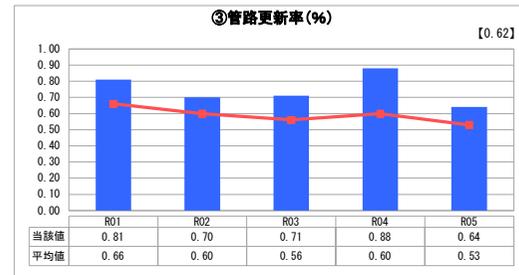
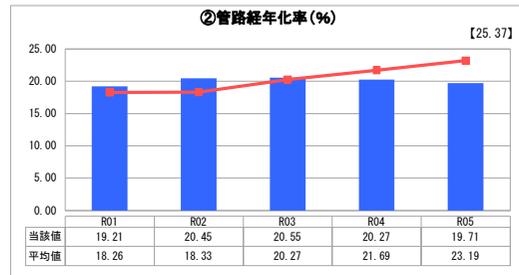
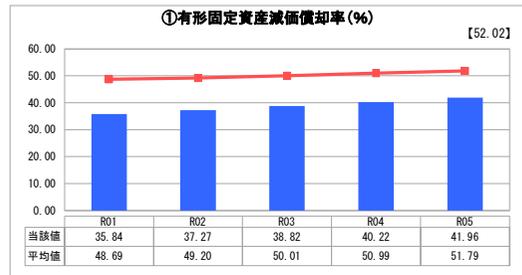
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
107,555	1,256.42	85.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
93,549	710.21	131.72

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
令和4年10月使用分から料金を改定し、令和5年度は改定後の料金を通年で適用したため、数値は上昇しています。
- ②流動比率
類似団体平均を大きく下回る数値ですが、100%超のため短期的な債務に対する支払いの能力を有しています。現金預金等、流動資産の確保に努めます。
- ③流動比率
類似団体平均を大きく下回る数値ですが、100%超のため短期的な債務に対する支払いの能力を有しています。現金預金等、流動資産の確保に努めます。
- ④企業債残高対給水収益比率
統合前簡水の残高が半数を占めており、類似団体と比較して高水準です。借入額の抑制により減少傾向にあるため今後とも適切な施設整備計画を踏まえた借入額の検討を行います。
- ⑤料金回収率
減価償却費の増大などにより、水道事業と簡易水道事業の統合時から原価割れに転じました。料金改定により若干の改善をみています。
- ⑥給水原価
地理的な要因から管路延長や施設数が多く、給水原価が割高です。施設の統合やダウンサイジングにより、固定費の抑制に努めます。
- ⑦施設利用率
50%台で推移し余剰がある状況です。統合やダウンサイジングにより、現状の改善に努めます。
- ⑧有収率
類似団体と比較して低い数値であるため、課題として捉えています。管路の更新工事をはじめ漏水対策を講じ有収率の改善に努めます。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
類似団体を下回る数値ですが、高度経済成長期に整備した施設が順次耐用年数を迎えることから、今後、数値が上昇していく見込みです。適切なメンテナンスを行い機能維持に努めていきます。
- ②管路経年率
類似団体を下回る数値ですが、順次耐用年数を迎えることから、今後上昇する見込みです。
- ③管路更新率
類似団体を上回る数値ですが、当市の管路延長の長さ及び資金確保の面から大幅な向上は困難な状況にあります。施設整備計画に基づき、重要度など優先順位を考慮した管路の更新を進めます。

全体総括

収益的収支においては、平成29年の水道事業と簡易水道事業の統合以降、減価償却費と企業債残高が増大し、一般会計繰入金（基準内）により純利益を確保している状況です。

資本的収支においては、管路延長や施設数が多いことから多額の更新費用が見込まれるものの、その財源を企業債に依存しており、企業債の償還も財政を圧迫しています。

収益確保のため令和4年と令和5年に料金改定を行いました。今後も適時、適切な料金改定を検討し、施設の統合、ダウンサイジングを踏まえた施設改良事業の実施など、一層の経営健全化に努めます。